
はじめに

濱野準一レーザーバイオナノ科学寄付講座は2008年10月1日に発足し、この度3年間の研究期間を終えます。終了にあたり寄付講座とその前身である(旧)財団法人濱野生命科学研究所の研究成果をまとめました。

増原宏、細川陽一郎、杉山輝樹、宇和田貴之の4人は、増原の大阪大学の退職に伴い、新設の(旧)財団法人濱野生命科学研究所(神戸の埋立地にある先端医療振興財団の一角にある)に移り、財団研究員の岡野和宣、瀧澤典子と共に、2007年4月より研究を開始しました。その後財団の閉鎖に際し、奈良先端科学技術大学院大学のご好意のもと、(旧)財団法人濱野生命科学研究所の寄付金をもとに濱野準一レーザーバイオナノ科学寄付講座は発足しました。7人の研究者(非常勤を含め)、技術員1人、事務補佐員1人、前期課程の学生4人、後期課程の学生3人、多くの共同研究者と研究活動を展開してきました。

レーザーを駆使したバイオナノ科学の研究において2つの成果をあげることができました。細川陽一郎特任准教授、岡野和宣研究員(東北福祉大学特任研究員)を中心として、フェムト秒レーザーを用いた生細胞の操作、配列、機能解析などの細胞レベルのメカニズム解析と細胞チップへの展開があります。もうひとつは杉山輝樹特任准教授等による、アミノ酸のレーザー捕捉結晶化の研究です。いずれも世界に先駆けたユニークな研究で広く注目を集めています。また大学院の教育研究指導を担当し、4人の博士前期課程修了生を世に出し、2人の工学博士を誕生させました。関係各位の温かいご理解、サポートに深く感謝しております。寄付講座は終了致しましたが、今後奈良先端科学技術大学院大学の名を広めてくれるであろう若い研究者、卒業生者、共同研究者の皆様のご活躍をお祈りします。

2011年9月30日

増原宏